

2013年度 第2四半期 決算説明会

主な質疑応答

Q1: デジタルカメラの販売状況について教えてほしい。

A1: 上期合計で約 260 万台を販売し、下期も同水準を見込んでおり、通期では 500 万台程度となる見通し。すでにXシリーズを始めとした付加価値の高い製品へのシフトを図っているが、コンパクトカメラ市場は大きく縮小しており、当社としてもコンパクトカメラはブリッジタイプと防水タイプ等、極限られた機種に絞り込む。

Q2: これまで取り組んできたコストダウン活動による効果が見られる事例があれば教えてほしい。

A2: G-up 活動でも各事業でコスト削減に取り組んでいるが、メディカル事業が最も進んでおり、利益率もアップしている。医薬事では研究開発費について、選択と集中により、がんを始めとする Unmet Medical Needs やバイオ医薬等に対象領域を絞っている。また、間接部門の生産性向上にも取り組んでいる。

Q3: 株主還元について、今期末の記念配当による増配分は来期以降も残るのか？

A3: 記念配当による増配分は一過性のものだが、収益性が上がっていけば増配も検討したい。また、自社株買いについても、引き続きキャッシュポジションを勘案しながら、成長分野への投資との兼ね合いで機動的に対応したい。

Q4: ドキュメントが好調だが、その中で先日発表された三菱重工との業務提携の狙いは？

A4: 三菱重工との提携によって、同社グループのドキュメンテーション業務を譲り受け、国内のサービス事業の拡大を目指す。

Q5: 為替の影響を除いたところで、来期特に成長が期待される事業はどこか？

A5: 収益的には特にメディカル、医薬品が伸びてくるだろう。また、グラフィックもデジタル化対応のための研究開発費が減少してくることから改善が期待できる。ドキュメントは足元での好調を維持できれば、来年度以降の早い時期に営業利益率 10%を達成したい。イメージングも CLP、インスタントカメラは来年度も引き合いが強いらろう。

以上